考える人

椎原　大樹

　私は考える人。つい、いろいろなことを考えてしまう。ありもしないこと、自分の将来のこと、地球の未来のこと…。考えることはお金はいらないし、場所も選ばない。自分にできないことも、頭の中で、いくらでもできる。そして、とても楽しい。だが、考えているうちにそのスケールはどんどん大きくなっていき、しんどくなることもよくある。

　そんな私は、今回、人からの評価について考えた。なぜ私は、常に周りの人からよく見られたいと思ってしまうのか。「よく見られたい」という気持ちは、きっと、誰にでもあると思う。しかし、私の場合、「よく見られたい」という気持ちが強すぎるがために、何事も完璧にやろうとしてしまうのだ。その結果、時間がいくらあっても足りなくなり、失敗して後悔するという悪影響が出た。

　例えば字を書くこと。小学1年生のとき、私の学校では漢字ノートの出来が名前とともに黒板に張り出されていた。それは、ものさしのようになっていて、左にいけばいくほど字がだだくさで間違いが多かった人が、右にいけばいくほど字が丁寧で間違いが少なかった人の名前が張り出されるというものだった。私は、左側に名前を張り出されるのが嫌だったので、必死で、丁寧かつ正しく字を書けるように頑張った。しかし、それが落とし穴。先生や友達から字がうまいといわれるようになり、私イコール字がめっちゃきれいというイメージがついたのだ。それから私は、自分は字がきれいでなくてはならないという考えに縛られて生きていくようになった。そんな生き方に窮屈さを感じながらも、自分を変えられずにいた。

ここで私は考えた。このまま字がうまいキャラでいくか、イメチェンして字の丁寧さとは無縁の日々を送るか。しかし、そのときばかりは、字がうまいキャラで生きていくことしか考えられなかった。イメチェンした後のメリットはわかっていたのに、何もできなかった。もはや、本当の自分を見つけられずにいた。

　私が愛農高校を選んだ理由は、ただ単に農業が好きだからというのもではない。寮生活を通して本当の自分を知りたいからでもある。共同生活をすることで、相手の価値観や考え方がわかり、それは、自分をより深く知ることにつながると考えたのだ。

　実際、愛農高校に入学して、様々な気付きがあった。朝、寮監さんの子供たちの、「いってきます」の声が聞こえてきていいな。ご飯を食べ終わるのが最後だとこんなに孤独なんだな。ごみの分別と掃除はしっかりしてほしいな…。寮生活だと考え事や気になることは自然と多くなるが、その分、新たな発見も多くて楽しい。愛農では授業も考える場面が多く、自分たちの考えを中心に進めるようなかんじなので、私のよく考えるところが役に立っていると思う。

　一方で不安に思うこともある。人間関係だ。人との付き合いは何とかなるだろうと初めは思っていたが、先輩たちの仲があまりにも良さそうだったので不安になった。同期の話にも全くついていけず、ますます不安になった。その時は、「私たちは広やかな交際を目指している。だから私は、このままでいいんだ。」と自分に言い聞かせた。しかし、言い聞かせれば言い聞かせるほど、むなしくなる一方だった。

　そんな中、ある同期の人の言葉が私の心に刺さった。「わかる」。趣味の話をしていた時に出た、何気ない言葉だ。たった三文字の言葉だが、自分の全てを認めてもらえたようで、とても嬉しかった。自分はありのままの自分でいればいいんだ。そう、気持ちは楽になった。私が、常に周りからよく見られたいと思っていたのは、何事も考えすぎて、頭がかたくなっていたからだろう。この意見発表も、これまでの自分なら、上手く書こうとして、自分の本当の気持ちは書かなかったと思う。こうして本当の自分を、弱い自分を、ストレートに皆に発表できたのは、愛農での一番の変化かもしれない。

これから三年間、愛農では、考えすぎず、やわらかい頭をもって行動したい。数ある高校の中で、こんなにもいろいろなことができる学校に入学できたのは、奇跡だと思う。だから、そのチャンスを無駄にしないように、苦手なことにも積極的に挑戦したい。今度こそ、人からの評価を気にしすぎてしまう自分を変え、本当の自分らしさを手に入れてみせる。常に自分と向き合い、自分とは何かを考えながら。